

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぺんぎんはうす		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年2月16日		～ 2025年2月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	7	(回答数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育のことを熟知している元小中学校教員が訪問支援員として訪問支援している。</li> <li>・ほとんどの訪問先が、訪問支援員が教員在職中に勤務または自身の子が在籍した学校である。</li> <li>・元学校の教員の強みを生かし、学校との情報交換などの連携が充分とれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長、特別支援コーディネーター、学年主任、担任などと話をし、情報共有してより良い支援につなげている。</li> <li>・訪問開始までに数度学校を訪問し、学校の意向を伺うとともに支援の内容について調整、説明を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的なアセスメントの活用</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等訪問支援を実施している児童のほとんどが、同時に放課後等デイサービスを利用しているため、訪問支援員は児童の放デイ、学校の様子を共に知ることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子を保護者に伝えるだけでなく、個々の子どもの特性、課題軽減に応じた支援を放デイでおこなうようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関とのカンファレンスの時間がもてるとより連携が深まる。</li> </ul>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3か月に一度の頻度で保護者会を実施し、講師の講演、保護者間の情報交換の場としている。</li> <li>・公認心理師、特別支援教育士、キャリアコンサルタント、社会福祉士などの専門職員による家族支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペンギんるーむ・ペンギんはうす合同の保護者会に、保育所等訪問支援利用の保護者にも参加を促している。</li> <li>・保護者相談を面談を定期的、または必要に応じて随時実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にアンケートをとって保護者のニーズに合わせて保護者会の内容の充実する。</li> </ul>
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	不登校傾向の子どもに対しては、訪問支援を予定していた日時に登校できないことがあり、訪問支援の計画を再調整しなくてはならない。	保護者、担任と連絡を密にしているが、子どもの状態によっては訪問支援当日の朝にならないと登校できるかわからない。保護者も困っている状態なので子どもと保護者の負担にならないようにしていく。	保護者、担任と連絡を密にして、臨機応変に対応する。不登校の理解や対応について研修を深める。子どもだけでなく家族の相談に乗り、全体の支援をする。
2	保護者から学校の年間予定、月予定、週予定をもらって、学校と訪問支援の日程調整をしているが、急な変更があって予定通りに行えないことがある。	学校の行事など学校の都合を優先して、どんな場合にも対応できる余裕を持った計画が必要。	前日にも日程を確認し、変更があった際にも臨機応変に対応できる体制を作る。
3			